

効果的な英作文指導を模索して

—『口頭英作文』と『段階的英作文』のすすめ—

野手 数弘

はじめに

英作文というのは、英文法や構文、文型の定着を図る上で、ライティング指導の一環としての教育的意義は依然大きい。ただ残念ながら、英作文を苦手とする生徒は多く、基本例文すら書けない生徒もいる。またそれはできて情報量の多い、少し複雑な英訳になると急にできなくなる生徒も数多くいる。後者の生徒の場合、「英文の核+修飾語句」という英文の構造的特徴が明確に理解できていないことが多い。英文の核は5文型で形作られ、その中心要素である述語動詞の変化によってさまざまな時制や態が表されるが、その知識不足のために土台が作れず、その上修飾語句の役割や添付のルールがわかっていないために、必要な諸情報が適切に付け加えられない。その結果、中心的なメッセージや付加的な情報が適切に表現できなくなってしまう。そのような問題点を改善し、情報の効果的伝達を可能にする実践的練習方法『段階的英作文』を紹介する。またそれと共に、上記のような生徒は往々にして英訳に対して苦手意識をもっているが、その意識を払拭するための基礎的な練習方法として『口頭英作文』を提示する。

1 口頭英作文

まずは、日本語を英語に直すことに「慣れる」必要がある。英訳に対する苦手意識を払拭するためには、中学生レベルの簡単な英文(単文)を繰り返し英訳する練習が最適である。筆記形式のドリルもよいが、口頭で即時に英訳させていく作業(逐次通訳方式)も極めて効果的だ。私はこれを「口頭英作文」と呼んでいる。難しそうに聞こえるが、易しい単語・文構造で処理できるものを選べば、すぐに慣れるし、そのリズムやちょっとした緊張感で生徒は乗ってくる。英訳に対する抵抗感が徐々になくなっていく。例えば次のような日本語を口頭で読んでいきながら、

どんどん英訳させていく。(生徒のレベルに応じて、leave / on one's way to ~ / school life / arrive / be in time for 等の単語を板書してもよい)

「私は今朝6時に起きました。新聞を読んでから、家族と一緒に朝食を食べ、7時に家を出ました。途中で友達に会いました。彼とは長い間会っていませんでしたので、とてもうれしかったです。20分ほど彼と話をしました。学校生活について話をしました。その後走って学校まで行きました。8時15分に学校に着きました。学校には遅れませんでした。」

I got up at six this morning. I read the newspaper and had breakfast with my family. I left home at seven. On my way to school I saw a friend of mine. Because I hadn't seen him for a long time, I was very happy. I talked with him for about twenty minutes. We talked about our school life. After that, I ran to school. I reached school at eight fifteen. I was in time for school.

この練習は、「慣れる」ことを主眼とする基礎練習であり、準備運動的なものなので極力平易な単語や表現を用いるようにする。複文は避けて、単文でテンポよく進めるのがよい。また、日本語を読み進めながら簡単にメモを取らせ、そのメモを見ながら英訳させる「メモ取り方式」も「口頭英作文」のバリエーションの一つとして効果的で面白い。この通訳方式の「口頭英作文」に興味を示す生徒が意外と多く、英作文を苦手とする生徒に対しての効果的な導入となりうる。

2 段階的英作文(デコレーションメソッドを用いて)

『デコレーションメソッド』とは英文構造の基本的特徴を「英文の核+修飾語句」と単純にとらえ、修飾語句で英文を飾りつけるように英文を膨らましていく方法である。独自に考案したこのメソッドを2009年2月、兵庫県英語部会研究大会にて初めて公表した。このメソッドを英作文に適用したのが次に示す「段階的英作文」である。課題文の英訳に際して、英文の中心的メッセージに諸情報を段階的に付加しながら訳していく。具体例を次に示す。

「交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。幼いころに数年間日本に住んでいたため、日本語は少し話せます。機会があれば、みなさんが私の国にもっと興味をもってくれるように、ブラジルのことをお話したいと思います。」

(数研出版 Revised POLESTAR Writing Course (p.27))

(1) ブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校にやってきました。日本語は少し話せます。ブラジルのことをお話したいと思います。

I'm Paulo Tanaka from Brazil. I came to this school. I can speak Japanese a little. I want to tell you about Brazil.

必要最低限度のメッセージ(中心的メッセージ)を英訳するとこのようになる。以下この英文を核として、これに付加的な諸情報を「段階的に」付け足しながら、英文を完成させていく。

(2) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil.

(3) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture.

(4) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。日本に住んでいたので、日本語は少し話せます。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture. Because I lived in Japan, I can speak Japanese a little.

(5) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。数年間日本に住んでいたので、日本語は少し話せます。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture. Because I lived in Japan for a few years, I can speak Japanese a little.

(6) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。幼いころに数年間日本に住んでいたので、日本語は少し話せます。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture. Because I lived in Japan for a few years as a small child, I can speak Japanese a little.

(7) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。幼いころに数年間日本に住んでいたため、日本語は少し話せます。機会があれば、ブラジルのことをお話したいと思います。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture. Because I lived in Japan for a few years as a small child, I can speak Japanese a little. If I have a chance, I want to tell you about Brazil.

(8) 交換留学生としてブラジルから来た Paulo Tanaka です。この学校には日本文化を学ぶためにやってきました。幼いころに数年間日本に住んでいたため、日本語は少し話せます。機会があれば、みなさんが私の国にもっと興味をもつ

てくれるように、ブラジルのことをお話ししたいと思います。

I'm Paulo Tanaka, an exchange student from Brazil. I came to this school to learn Japanese culture. Because I lived in Japan for a few years as a small child, I can speak Japanese a little. If I have a chance, I want to tell you about Brazil **so that you'll be more interested in my country.**

当然のことながら、付加的情報を修飾語句という形で添付していく過程で、その然るべき位置と修飾に関する文法的ルールを確認しながら作業を進めていくことになるが、それを通して「形容詞句(節)」や「副詞句(節)」といった文法用語の意味及び分詞・不定詞などの文法的役割が理解できるようになる。結果として、そのような文法知識を英文作成という実際の運用面においてうまく活用できるようになる。

特に一つの英文に多くの情報が含まれている場合、このメソッドを用いた「段階的英作文」は効果的である。例えば次のような課題文の場合である。

「向こうのテーブルで一人で黙々と食事をしているあの背の低い男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」

この日本語は一文に諸情報が盛り込まれて長文化している。そのため、中心となる情報を的確につかみ、付加的な情報を適切に表現・提示するのが難しい。まず最初に、中心情報を把握し土台作りをすることが肝要である。次にそれを英文の核として、付加的な情報を順次「段階的に」添付していくとよい。具体的には次のような作業手順になる。ステップ①を「英文の核」として、②～⑩のステップを踏んで、付加的情報を添付していく。ここでは日本語とその英訳を分けてそのプロセスをご覧いただきたい。

| | |
|---|--|
| ステップ①基本文(英文の核) 「あの男性は、病院に運ばれました。」(中心情報) | ステップ① That man was taken to a hospital. |
| ステップ② 「あの男性は、救急車で病院に運ばれました。」 | ステップ② That man was taken in an ambulance to a hospital. |
| ステップ③ 「あの男性は、救急車である有名な病院に運ばれました。」 | ステップ③ That man was taken in an ambulance to a famous hospital. |
| ステップ④ 「あの男性は、救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」 | ステップ④ That man was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe . |
| ステップ⑤ 「あの男性は、昨日救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」 | ステップ⑤ Yesterday , that man was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe. |
| ステップ⑥ 「あの男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」 | ステップ⑥ Yesterday, that man was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe, with a broken leg . |
| ステップ⑦ 「あの背の低い男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」 | ステップ⑦ Yesterday, that short man was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe, with a broken leg. |

| | |
|---|--|
| <p>ステップ⑧</p> <p>「一人で<u>食事</u>をしているあの背の低い男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」</p> | <p>ステップ⑧</p> <p>Yesterday, that short man <u>eating alone</u> was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe, with a broken leg.</p> |
| <p>ステップ⑨</p> <p>「一人で<u>黙々と食事</u>をしているあの背の低い男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」</p> | <p>ステップ⑨</p> <p>Yesterday, that short man eating <u>silently alone</u> was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe, with a broken leg.</p> |
| <p>ステップ⑩</p> <p>「<u>向こうのテーブルで</u>一人で黙々と食事をしているあの背の低い男性は、昨日足を骨折して救急車で神戸のある有名な病院に運ばれました。」</p> | <p>ステップ⑩</p> <p>Yesterday, that short man eating silently alone <u>at the table over there</u>, was taken in an ambulance to a famous hospital in Kobe, with a broken leg.</p> |

但し、この英文はすべての情報を一文に入れて表現しているため長くてわかりにくい。このような場合は、状況に応じて何文かで分割表現するとよい。つまり、情報を分けて提示することができる。この英文に関しては、次の(A)のように2つに分割できるとし、また(B)のように3分割することも可能である。

- (A) 1) Yesterday, that short man eating silently alone at the table over there, was taken to a famous hospital in Kobe.
- 2) He was taken there in an ambulance with a broken leg.
- (B) 1) There's a short man eating silently alone at the table over there.
- 2) That man was taken to a famous hospital in Kobe yesterday.
- 3) He was taken there in an ambulance with a broken leg.

デコレーションメソッドを用いた、この「段階的英作文」は一見機械的な単純作業のように思えるが、この練習を繰り返し行うことによって、日本文から中心的なメッセージを正確に読み取り、付加的な情報を修飾語句という形で適切に付け足せるようになる。また、「英文の核+修飾語句」という英文の基

本の特徴が体得でき、それによって修飾語句の効果的な添付の仕方が身につく。また、最後に示した「情報の分割提示」による表現練習は、別の意味で情報処理能力を高め、柔軟な表現力の養成に役立つ。今回の中心テーマではないが、英作文及びライティング指導の効果的練習方法の一つとして参考までにご紹介した。

3 まとめ

2009年2月兵庫県英語部会研究大会で初めてこの「デコレーションメソッド」を公表した。このメソッドは英作文だけではなくリーディング指導にも、あるいはオーラルでの発表指導などにも幅広く活用できる手法である(兵庫県高等学校教育研究会 英語部会 平成21年度『英語部会のあゆみ』参照)。英文の構造的特徴が十分にわかっていないがために、英文の読み書きができないという生徒に対しての有効な処方箋となる。この拙稿においてはライティング指導の一環としての英作文指導に焦点を当て、段階的な訳出法を紹介したが、これはデコレーションメソッドの原点であり、また最も得意とするところである。最初に紹介した「口頭英作文」と併せて、是非貴校においても授業の中でご活用いただき、何か有益なご意見・ご助言並びに忌憚のないご批判をいただければ幸いである。

(神戸海星女子学院中学校・高等学校)